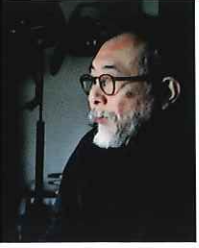


昆虫や生き物の生態を写す河野甲。縫い合わせ、漆を塗ることで独特の表現を生み出す市川陽子。皮革特有の性質や素材感と真摯に向き合い、それぞれが独自のアプローチでその魅力を引き出します。本展は、皮革を用いて造形表現を展開する二人の作家の魅力に迫り、革による造形表現の「現代のかたち」を紹介します。



撮影: SHUNJI FUJIMARI

河野甲  
Kono Ko

- 1. 蛹 2000年
  - 2. 地動説 2001年
  - 3. 大気への託身(部分) 2010年-2012年頃 当館蔵
  - 4. 両性具有 1995年
- 表記のないものはすべて個人蔵

河野甲(1956-)は、皮革造形作家石丸雅通に師事し、1984年に独立しました。様々な昆虫や、カタツムリなどの軟体動物をモチーフにすることが多く、ユニークな生態をつぶさに観察し、独自の視点で切り取った造形を生み出します。細部までこだわり抜いた写実的な生物から、自身の空想による架空の生物まで表現の幅は広く、それらが共存している世界観が見るものを引き込みます。

- 1956年 愛媛県宇和島市に生まれる。
- 1977年 京都嵯峨美術短期大学洋画科卒業  
皮革造形作家石丸雅通に師事
- 1984年 皮革造形家として独立、京都に工房をもつ。
- 2004年 作品集『しずかな八月』(求龍堂)出版
- 2019年 「いきもの狂騒曲」(茨城県陶芸美術館)出品
- 現在 京都府木津川市にて制作



撮影: Masashi Kuramoto

市川陽子  
Ichikawa Yoko

- 5. Mimic/puff-1 2023年
  - 6. Mimic/four legged friend-1 2023年
  - 7. Mimic/grain side-1 2023年
  - 8. Mimic/folds-1 2023年
- すべて個人蔵  
画像提供: GALLERY crossing

市川陽子(1985-)は、京都市立芸術大学工芸科漆工専攻を修了後、独立して現在は滋賀県で制作活動をしています。漆の表現を追求する中で皮革と出会った市川は、革同士を縫い合わせて成形し、漆を塗って硬化させる方法で、箱や器などを制作しています。素材のもつ特性を生かしながら漆を塗り重ねて仕上げた作品は、しっとりやわらかい印象の光沢を放ち、存在感を示します。

- 1985年 大阪府に生まれる。
- 2009年 京都市立芸術大学美術学部工芸科卒業
- 2011年 同大学大学院修士課程漆工専攻修了
- 2019年 「TRANSFORM」(GALLERY crossing)
- 2020年 「漆皮SHIPPI」ギャラリーうつわノート、東京
- 2022年 「A Patchwork of Memories」(SOIL/香港)
- 2024年 「Personal Folklore」(GALLERY crossing)
- 現在 滋賀県を拠点に制作



◎出品作家による  
ギャラリートーク  
「革の魅力」

予約  
不要

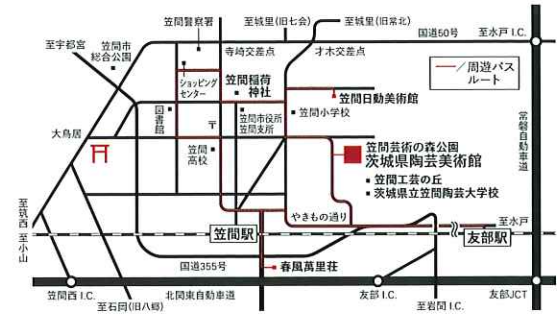
・内容: 出品作家2人によるアーティストトークを行います。作品について、制作の姿勢について、作家の魅力を深掘りします。  
・日時: 11月23日(土) 14時から15時30分まで

・作家: 河野甲氏、市川陽子氏 聞き手: 岩井基生(当館主任学芸主事)  
・会場: 茨城県陶芸美術館 2階第2展示室(展覧会場)  
・参加費: 無料(要テーマ展観覧料)

※諸事情により、予告なくイベント等中止・延期する場合がございます。変更の場合は、当館ウェブサイトにてお知らせいたします。

【ごいっしょに】  
企画展「THE HEADLINERS 2024」10月12日(土)~1月26日(日) 茨城県陶芸美術館  
※別途「企画展観覧料」が必要になります。

【交通案内】  
電車 / JR常磐線 上野~友部駅(特急70分)→友部駅から「かさま観光周遊バス」(料金100円、定員36名)で15分もしくは友部駅でJR水戸線に乗り換え笠間駅(9分)下車し、笠間駅からタクシーで5分  
車 / 北関東自動車道、友部インターから10分、笠間西インターから15分、常磐自動車道岩間インターから25分、水戸インターから30分  
駐車場 / 笠間芸術の森公園北駐車場(300台)をご利用ください。  
※会期中、芸術の森公園内でイベントがある場合は、駐車場が有料になりますが、展覧会をご覧いただく方には美術館受付で返金いたします。



INSTAGRAM

詳しい情報は、当館ウェブサイトをご覧ください。